令和　3　年度事業評価シート

No.1

PLAN(計画)　　自己評価

事務事業番号	14

担当課	健康課	担当課長	大嶋　昌広
事業担当者	矢野　由里恵	一次評価者	持松　可奈子
事業区分	継続事業	事務事業評価の履歴	有
事務事業名	ライブラリー事業		
予算科目	4　款　1　項　7　目		
予算事業名	ライブラリー事業費		
総合計画での位置づけ（施策名）	健康管理・意識を高める		
事業の性格	自治事務		
法令根拠等	_		
事業の対象	全住民		
事業の目的	ひさやま健康ライブラリーは町内外に向け健康の町としての魅力をPRする情報発信の拠点として設置されている。 ライブラリー事業を通じて久山町研究などで分かった健康情報を発信し、町民の健康づくりに寄与するとともに、久山町健診に対する町民への認知、理解を深めていただける機会とする。 今後は健康に関する情報発信を行うにあたり全庁的な体制づくりを構築する。		
実施期間　開始年度	平成　28　年度から		
実施期間　終了年度	令和　　年度まで		
事業の内容	ヘルスC＆Cセンターの2階ホールをメインに、健康ライブラリーを平成29年3月に設置した。「健診等のあゆみコーナー」、「久山町研究の成果・情報コーナー」の造作物を設置し、町民が健診の歴史や先人の思いを学び、健診事業について理解を深めてもらうことを目的としている。また、健康をテーマにした事業（講座等）を展開し、「健康の町ひさやま」の情報発信を行う。		

目的達成の指標（成果指標）

健康ライブラリー来場者数

区分 年度	単位	2　年度	3　年度	4　年度	5年度
目標	人	400	400	400	400
実績	人	274	124		

指標設定の考え方	健康ライブラリーを健康に関する情報発信拠点として活用し、「健康の町ひさやま」の魅力を町内外にアピールする。ライブラリーに人が流れる仕組みを検討し、来場者を増やしていく。
計画時の懸案事項	平成28年度より「ひさやま健康ライブラリー」を情報発信拠点として活用し、「健康の町、久山」のイメージ形成に向けた各種取り組みを企画・運営してきた。 久山町の健康をテーマとしたワークショップや展示会などの開催により、本事業は一定の効果を得ているところではあるが、今後さらなる「健康の町、久山」のイメージ形成を推進していくには、庁内全体で情報発信を行っていく必要がある。
計画時の懸案事項への対応	「久山町健康情報発信戦略」を策定することで、本町のまちづくりの基本理念「『国土・社会・人間』の3つの健康づくり」を踏まえた長年の取り組みを町の強みとした情報発信を全庁的に行う仕組みづくりを行っていく。

PLAN（計画）

No.2

事務量及び財政内訳

町民一人当たり負担額　405 円

※負担額には国費・県費は含まれていません。（千円）

項目		2　年度予算	3　年度予算	4　年度予算	5　年度予算
事務量	① 人工数	0.1	0.11	0.11	0.11
	② 人件費単価	7,652	7,179	7,179	7,179
	③ 補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費（①×②－③）	765	789	789	789
事業費	直接事業費	3380	2959	398	398
	人件費	765	789	789	789
	合計	4,145	3,748	1,187	1,187
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	4,145	3,748	1,187	1,187
	合計	4,145	3,748	1,187	1,187

事業費計画

（千円）

区分／年度	2　年度	3　年度	4　年度	5　年度	6　年度
目標	3,380	2,959	398	398	398
実績	3,316	2,840			

事業活動の実績（活動指標）

※　上段には目標値を、下段には実績値をそれぞれ記入してください。

項目	単位	2　年度	3　年度	4　年度	5　年度
ライブラリー事業利用者数	人	400	400	400	400
		274	124		

DO（実施）

事務量及び財政内訳

町民一人当たり負担額　307 円

※負担額には国費・県費は含まれていません。（千円）

項目		2　年度決算	3　年度予算	3　年度決算	4　年度予算
事務量	① 人工数	0.04	0.11	0.11	0.11
	② 人件費単価	7,652	7,179	0	7,179
	③ 補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費（①×②－③）	306	789	0	789
事業費	直接事業費	3316	2959	2840	398
	人件費	306	789	0	789
	合計	3,622	3,748	2,840	1,187
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	3,622	3,748	2,840	1,187
	合計	3,622	3,748	2,840	1,187

実施備忘録

CHECK（評価）

No.3

自己評価	評価者	矢野　由里恵

5段階評価で評点を付けます。
5　大 ←→ 小　1　↓

1. そもそも必要な事業か？	評点	判定
□ 町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。	4	B
□ 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。	4	
□ 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。	3	
□ 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。	5	
2. 町が実施する必要があるか？		
□ 町が実施主体となることが法令等により定められている。 ※該当する場合は左の□にチェックしてください。		
□ 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。	4	B
□ 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。	4	
□ 民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。	4	
3. 実施内容は適切か？		
①有効性		
□ 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。	5	A
□ 事業の手法・活動内容は適切である。	4	
□ 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。	4	
②効率性		
□ 事業費に見合った成果を上げている。	4	B
□ 外部委託等（指定管理者を含む）による効率化が図られている。	4	
□ 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。	4	
③公平性・透明性		
□ 受益者負担について課題はない。（または、受益者負担を求めることが適当でない。）	4	B
□ 事業費に占める一般財源の額は妥当である。	4	
□ ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。	3	

今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの
□ A重点化（計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る）	
☑ B現状維持（計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める）	
□ C見直し	
□ D廃止	
□ E完了	

C見直しの具体的内容
□ 実施方法の工夫
□ 事業の効率化
□ 受益者負担の適正化
□ 事業縮小
□ その他

4. 自己評価の理由（必要性、有効性、効率性、公平性・透明性の観点から）

新型コロナウイルス感染症蔓延状況の中、新たなイベントを行い久山町の健康情報を発信することが困難であったため、令和2年度に作成した「ひひひ展」をレスポアールで行っているイベントの時期に期間限定で移設し、コロナ禍の中でも情報発信できるように工夫を行った。
また今年度は経営デザイン課と連携し、「久山町健康情報発信戦略」の策定を行った。今回、情報発信について整理したことで、今後は庁内全体で、情報発信を行っていくことができるのではないかと考える。

5. 成果実績の評価（今後の方向性等について具体的に）と課題認識

今後は、町の職員が「健康」を広義に捉え、健康ライブラリー事業のみならず、町の事業を「健康」と結びつけて企画・発信することで、庁内全体で情報発信を行っていくことができるのではないかと考える。
継続的に実施してきた本事業は、今後も町の健康行政を町民の健康に寄与する機会と場の創出に努めながら、他課との連携により戦略の推進体制を構築することで、さらなる情報発信に努めることができるのではないかと考える。
推進体制の構築にあたっては、今回策定した戦略に基づき、各課の現状の業務に関するヒアリングやワークショップなどを実施しながら、情報発信に関する意識向上を図ることから始めていく必要がある。

CHECK（評価）

自己評価を基に基本施策の進捗状況と照らし合わせて評価を行う。

No.4

一次評価

評価者	持松　可奈子

5段階評価で評点を付けます。
5　大 ←→ 小　1

1. そもそも必要な事業か？	評点	判定
□ 町民のニーズが高い。ニーズが増加傾向である。	4	B
□ 緊急性が高く、即時に実施しなければならない。	4	
□ 実施しなければ町民生活に及ぼす影響が大きい。	3	
□ 町民生活や町のイメージアップの向上に寄与する。	4	
2. 町が実施する必要があるか？		
□ 町が実施主体となることが法令等により定められている。　※該当する場合は左の□にチェックしてください。		
□ 公権力行使、あるいは政策判断を伴い、民間等では実施できない。	4	B
□ 民間等や国・県で実施するよりも効果的である。	4	
□ 民間等あるいは国や県で類似事業を実施していない。	4	
3. 実施内容は適切か？		
①有効性		
□ 久山町総合計画基本計画の将来計画を実現するために有効な事業である。	5	A
□ 事業の手法・活動内容は適切である。	4	
□ 事業の成果達成状況や進捗状況は順調である。	4	
②効率性		
□ 事業費に見合った成果を上げている。	4	B
□ 外部委託等（指定管理者を含む）による効率化が図られている。	4	
□ 実施方法の工夫により効果を維持しながらコスト削減を図っている。	4	
③公平性・透明性		
□ 受益者負担について課題はない。（または、受益者負担を求めることが適当でない。）	4	B
□ 事業費に占める一般財源の額は妥当である。	4	
□ ホームページや広報を活用し、積極的に情報を公開している。	3	

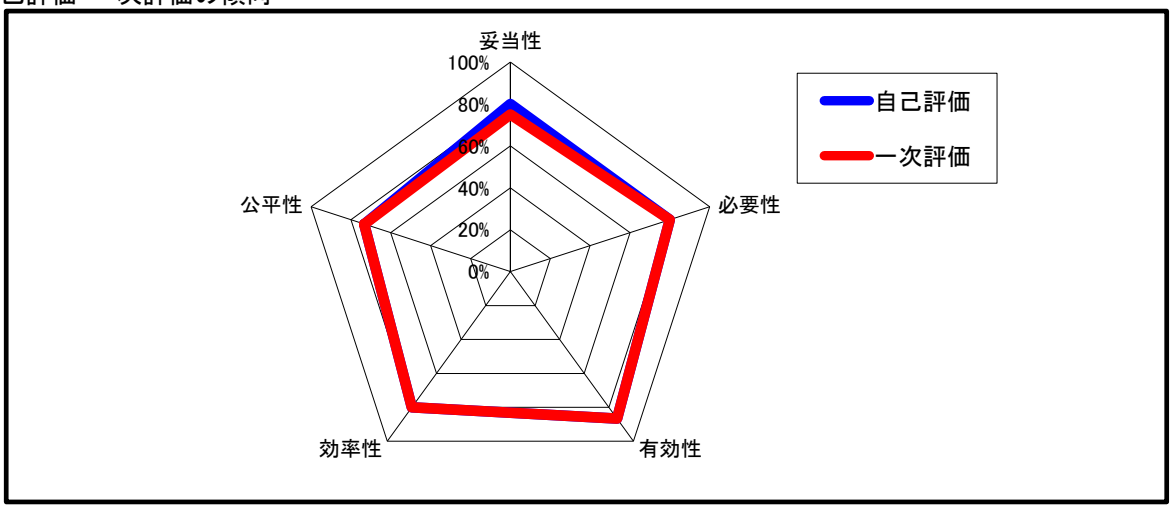
今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの
□ A重点化（計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る）	
☑ B現状維持（計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める）	
□ C見直し	
□ D廃止	
□ E完了	

C見直しの具体的内容
□ 実施方法の工夫
□ 事業の効率化
□ 受益者負担の適正化
□ 事業縮小
□ その他

一次評価の理由（今後の方向性等について具体的に）

コロナ禍の影響で、町内外向けのワークショップ等の開催が控えられていたが、今後は感染症対策を講じるとともに、その内容を工夫して開催することで、健康への関心喚起に繋げていく。
また、久山町健康情報発信戦略において、経営デザイン課と連携して効果的な情報発信の方法について検討がされている。今後はその結果を受けて、庁内全体での情報発信を段階的に行う。

自己評価・一次評価の傾向



ACTION（評価・改善）

自己評価、一次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.5

二次評価

評価者	大嶋　昌広

☐ A以下の点について良好と評価し、コストを拡充し更なる事業推進を図る。

☑ B計画どおり、現状のまま事業を継続する。

久山町健康情報発信戦略において、経営デザイン課と連携し、町全体として、効果的な情報発信が必要である。そのため、新たな組織づくりや発信主体となる団体の育成が必要ではないか。

☐ C事業継続と判断するが、以下の課題を解決するため計画の見直しを行う。

☐ D事業廃止と判断し、外部評価委員会に諮ることとする。

外部評価委員会で評価する。

月　　日
開催予定

☐ E事業の目的を達成し、事業完了したと判断する。

☐ 一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。

一次評価をやり直し、
月　　日
までに提出すること。

☐ 評価終了
☐ 外部評価へ

ACTION（評価・改善）

自己評価、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

№6

外部評価

今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの
☐	A重点化（計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る）
☐	B現状維持（計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める）
☑	C見直し
☐	D廃止
☐	E完了

C見直しの具体的内容	
☑	実施方法の工夫
☐	事業の効率化
☐	受益者負担の適正化
☐	事業縮小
☑	その他

評価	C

外部評価委員の意見

・実施されている内容は素晴らしいと思うが、それをどう町民の方に見せるのか、効果的な周知方法を検討すべき。
・目的と実際の事業との関連性が分かりにくい。目的に合わせた指標の設定が必要ではないか。
・久山町の今までの健康への取組を紹介するということなら、Web等だけでも良いかもしれない。でもそうされてないのは、久山町としての想いや願いが違うところにあるからか。

経営者会議

経営者評価	町長

今後の方向性	A・B＝目標達成できたもの C・D＝目標達成できていないもの
☐	A重点化（計画どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る）
☑	B現状維持（計画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める）
☐	C見直し
☐	D廃止
☐	E完了

C見直しの具体的内容	
☐	実施方法の工夫
☐	事業の効率化
☐	受益者負担の適正化
☐	事業縮小
☐	その他

評価	B

経営者会議の結果

本町は、「国土の健康」「社会の健康」「人間の健康」の3つの健康づくりをまちづくりの基本理念にかかげ、さまざまな政策に取り組んできた。その中で本事業は、生活習慣病予防健診の次のステップとして、食や体験を通して自分の健康づくり（セルフケア）に関心を持っていただき、日々の生活をより豊かに過ごすことにつなげることを目的に実施している。

転入者が本事業をきっかけに生活習慣病予防健診を受診するなど健康づくりに関心を持っていただき行動に繋がった実績もある中で、外部評価委員会での評価がCという結果になったのは、本事業の目的を外部評価委員会に伝えることがでなかったためと考えられる。本事業の目的を果たすためにも、今後もダイニング＆ワークショップ等幅広い年代が参加できる事業に取り組み、令和3年度に策定した健康情報発信戦略計画をもとに、全庁一体となって効果的に町民に対してセルフケアに繋がる情報発信や町外へ向けた町の魅力発信を行っていく。

令和　5　年度予算要求事項（今後の取り組み）

今後も生活習慣病予防健診の次のステップとして、町民が健康づくり（セルフケア）に関心を持ち実行するため、健康や食等に関連するひさやま健康セミナーの開催を継続していく。さらに、経営デザイン課と連携し、幅広い世代が参加できるダイニング＆ワークショップ等を開催し、「久山町健康情報戦略計画」をもとに全庁一体となって健康に関する情報を発信していく。

また、町民が事業に参加することで、健康づくりに興味を持ったのかという成果を指標化し、今後の事業展開に繋げるため、健診時の聞き取り調査事項に、健診受診のきっかけ欄を追記する。